

編集後記

令和2年度の初等教育学科紀要をお届けします。今号には、教育・保育の今日的な課題を取り上げた論文2編、教育現場等のデータに基づく論文2編と、幼児の教育哲学に関わる論文1編、小学校の教科教育に関わる研究ノート1編の、計6編を掲載することができました。年度初めの多忙を極める時期に、本年度は、加えて、新型コロナウイルス感染拡大収束のための緊急事態宣言発令下にご投稿下さり、校正にご協力下さいました諸氏に御礼申し上げます。

日本および諸外国における乳児保育の変容を概観した上で、乳児保育の質に関する研究知見の整理を行い、乳児保育の質向上をめぐる課題について検討した遠藤論文、特別支援教育における「通級による指導」が担う役割と今後の課題を明確化し、通級学級において実践研究を行った石井・折原両氏の論文2編、学童クラブにおいて、応用行動分析における集団を対象とした有効な支援方法である相互依存型集団随伴性による介入を実践し、おやつ準備行動に及ぼす影響を検討した中村・鈴木亜耶音両氏の論文、倉橋惣三の「日曜学校論」と題するキリスト教的宗教教育論の分析から、現代日本の保育思想の源流を探究することの意義を見いだした鈴木法子氏の論文、「ありのまゝ」であることを標榜して始まった児童雑誌「赤い鳥」の作文(綴り方)指導について、鈴木三重吉をはじめとする編集者の言説からその内実を検討し、「赤い鳥」が作文指導に齎した大きな影響の端緒をとらえることを試みた平野氏の研究ノートと、子どもが暮らしの中で感じる素朴な疑問を、実際に小学生やその保護者から集められた「なぜ？」を厳選して、「楽しく遊ぶ学ぶ」ことができるように配慮した白敷氏監修の図鑑の新刊紹介も含め、教育・保育について、理論・実践、歴史性・現代性と、多面的な角度から捉えた集となり、初等教育学科最終号にふさわしい集となったと考えます。

新型コロナウイルスの感染拡大は、年頭には予想もつかないほど大きな影響を社会に与え、いまだに収束は見えてきません。前期の授業では、教員と学生の両者が授業運営に不安を抱え混乱しながら、初めてのオンライン授業に取り組んできました。今回のオンライン授業から学び・経験したことが、学生たちの未来を拓く力の糧となることを願っております。

最後になりましたが、作業が大幅に遅れましたことをお詫びいたしますとともに、これまで初等教育学科号の刊行にご尽力下さいました近代文化研究所編集室はじめ関係のすべての皆様に厚く御礼申し上げます。

編集委員

☆掲載論文の無断転載を禁じます。	学苑 九百五十六号
	定価 八八〇円(本体八〇〇円)
	購読料 一カ年分 一〇五六〇円
	(本体 九六〇〇円)
	令和二年五月二十日 印刷
	令和二年六月一日 発行
発行所 昭和女子大学	編集発行人 烏谷知子
〒154-8533 近代文化研究所	印刷所 三秀舎
東京都世田谷区太子堂	
一ノ七ノ五七	
電話 03(三四一一)五三〇〇	